

「ふれあい広場」の各コーナーで紹介する人を募集します。自薦他薦は問いません。日ごろ感じている意見や質問なども募集しています。  
あて先=〒028-0592 遠野市東館町8番12号  
市情報推進課広報広聴係 (☎@2111内線364)

# ふれあい広場

## ともに歩んで半世紀

② 上郷町

しょうさく 吉田 昭作さん (77歳)

リカさん (73歳)



**心から感謝しています**  
これからも元気に過ごしましょう

・結婚のとき、五十年の思い出は、新居を釜石に構えました。当時は、社宅がたくさんありました。少しでもいい所に入りたくて社宅を転々としたので、ここに落ち着くまで七回も引っ越しました。(リカ) 結婚したころは何もなく、げた箱を茶たんす代わりにしていました。(昭作) 会社から勤続三十年功労で休暇と金一封をもらい二人で関西、九州方面を旅行したことが思い出です。(リカ) 社宅の友達と楽しく過ごしたことが思い出です。

・今の楽しみ、お互いに言いたいこと(昭作) 庭いじりとたまに行く温泉巡りです。

(リカ) 老人クラブの仲間とグラウンドゴルフや室内競技をしたり、旅行に行ったりすることです。

(昭作) いろいろカバールしてもらった。心から感謝しています。

(リカ) お互い元気に過ごした五十年。これからも元気に過ごしましょう。

◆お仕事は…コメリ遠野店で接客販売と倉庫担当をしています。聴覚に障害があるため、お客さまの口元を見て会話の内容を理解しています。  
◆休日の過ごし方は…最近、手話サークルに通い始めました。手話を覚えることが今は一番の目標です。  
◆自己分析すると…一度決めたことは最後までやります。  
◆理想のタイプは…素直で家庭的な人。自分のことを理解してくれる人。  
◆将来の夢は…遅くならないうちに結婚して、明るい家庭を築きたいです。

## 青春のトーク

②



## 手話の習得に励んでいます

なおえ 濱田 直兄さん

松崎町・29歳・A型・コメリ遠野店

## 学校 CLUB 紹介



② 小友中学校ソフトボール部

**仲間を大切に 気持ちで負けない!**

小友中学校(鈴木恒夫校長、生徒五十人)ソフトボール部は一年生四人、二年生四人の計八人で活動しています。九月に行われた地区新人大会では、遠野中学校に健闘むなしく敗れました。主将の菊池悦子さん(二年・シヨート)は「新人戦では精神面の弱さから試合の流れを作れず、悔しい思いをしました。冬期間は体力や基本技術を身に付けることを課題に、朝練習と全校合同トレーニングに加え、自主練習にも取り組んでいます。練習してきたことを試合で発揮し、来年の総体では必ず勝ちたいです」と話していました。

顧問の森川正徳、軽石邦子(まろり) 教諭から…

部員が八人しか居ないので、仲間を大切にしながら取り組んでほしいです。目標をしっかり持ち、限られた時間の中でやるべきことを考え練習に取り組んでいけば、来年は絶対に勝てます。フェアプレイ精神を忘れず、礼儀や言葉遣いにも注意していきましょう。

## 風の人

第12回全日本ホルスタイン共進会優等賞4席

共進会は人の心を豊かにし  
牛乳は生活を豊かにしてくれる

しげき 佐野 茂樹さん(上郷町・40歳)



## ひとこと インタビュー



りょう 浅沼 諒くん  
(宮守小・1年)

プロ野球選手になってピッチャーをやりたいです。好きなチームは、ヤクルトスワローズです。



み 君崎 なつ海ちゃん  
(宮守小・1年)

お花屋さんになりたいです。チューリップやスマイルをいっぱい育てて、お母さんやお客さんにあげたいです。



みずき 菊池 瑞希ちゃん  
(鱒沢小・1年)

歯医者さんになって、歯が痛い人を治してあげたいです。好きな科目は算数です。さくらんぼ計算が好きです。



きょうすけ 菊池 恭介くん  
(鱒沢小・1年)

大工さんになって、立派な自分の家を作りたいです。好きな科目は国語です。授業で自動車図鑑を作っています。

大きくなったら何になりたい?

佐野茂樹さんは、九月に栗石町のJA全農いわて中央家畜市場で開催された第四十九回県畜産共進会ホルスタイン種の部において、最高賞である名誉賞(経産牛の部)を受賞し、十一月に栃木県で開催された第十二回全日本ホルスタイン共進会に県代表として出場しました。五年に一度開催されることから牛のオリンピックともいわれる同共進会では、全国の強豪を相手に経産牛の部第七部で見事、優等賞四席の栄誉に輝きました。

「共進会は、ツールタイプといわれる理想の牛にだけ近づけることができるかを競います。子どもころから、父親に共進会へよく連れて行かれ、その魅力に取りつかれました。また、他地域に仲間ができて、交流が深まることも魅力の一つです。いい牛を育てるには、雌牛の系統と雄牛の選抜が重要となります。なかなか、思うようにはいきませんが、育成技術やお産した牛の飼養管理も大切です。毎日の積み重ね

がいい牛を育てることにつながると思います。いい牛を育てることは難しいことですが、それが魅力であり、楽しみでもあります。経営面では、昨年度、牛の体格を審査する牛郡審査と乳量を示す検定成績において、北海道を除く府県で両部門トップになりました。この成績を常時維持していきたいと思えます。共進会では、五年後に北海道で開かれる全日本に出場し、上位入賞を狙いたいです」と話していました。